

# 生物部が遺愛幼稚園（元町）にて実験教室

2月1日（土）、遺愛女子中学高校生物部が遺愛幼稚園にて実験教室を行いました。コロナ禍前は毎年行っていたのですが、ここ数年は訪問することができず、久しぶりの行事となりました。



実験教室の準備は年明け前から始めました。生物部員を4班に分け、各班ごとに園児が喜ぶであろう実験を考えました。そして買い出し、予備実験、実験準備、説明の練習などすべて自分たちで行い、当日を迎えました。

実験は『ムラサキキャベツ液の色が変わる』『紙コップを使って音遊び』『白クレヨンで書いた絵が浮き出て見える』『プラバンキーホルダーづくり』の4つを行いました。

実験前日から園児たちはとても楽しみにしてくれていたようで、当日も始まる前からニコニコがあふれていました。かたや生物部員たちは、初めて園児たちと触れ合うということで緊張のためかぎこちない笑顔。そんな対照的な状況の中、実験教室が始まりました。

ムラサキキャベツ液の実験では、紫色の液がピンクや青に変わる度、園児たちは「きれいー！」「私、この色が好き！」目をキラキラさせながら紙コップに液を溢れんばかりに注いでいました。

紙コップの実験では、糸が張っていないと聞こえないはずの糸電話にもかかわらず、糸が緩んでいても「聞こえる！」との園児が多発。糸電話じゃなくても聞こえるほどの大きな声でコップに話す元気な園児たちでした。

白クレヨンは、描いた絵が薄めたうがい薬を紙全体に塗ることで浮き出て見えるという実験でした。何も書いていないように見える紙から絵が浮き出て見える現象に、園児たちからは「ふしぎ〜！」との声が多数聞こえました。

プラバンづくりでは絵をすぐにかき終わる子、何を書こうかなかなか決められない子など様々。生物部員が、早い子には「ちょっと待っててね。」や、遅い子には「新幹線にしようか。」など上手に声かけしてくれていました。



終わった時には生物部員のみんなも始めの緊張した笑顔から本当の笑顔に変わっていました。園児だけでなく、生物部員にとってもたくさんの学びを得た良い経験となりました。（記：生物部顧問 五日市先生）

遺愛幼稚園の園児たちは、日頃から白衣を着て『科学あそび』をしているので、この日を本当に楽しみにしていました。「きれいー！」「ふしぎ〜！」こそ、科学探究のはじまりです。そのような感動、驚きをたくさん経験させたいと思っています。

2024年2月6日（火）